

2023年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年7月14日

上場会社名 株式会社ジンスホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3046 URL https://jinsholdings.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 田中 仁  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員IR室長 (氏名) 近藤 弘行 (TEL) 03-6890-4800  
 四半期報告書提出予定日 2023年7月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第3四半期の連結業績 (2022年9月1日～2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第3四半期	53,562	7.3	3,679	33.4	3,587	14.2	2,151	109.6
2022年8月期第3四半期	49,916	4.6	2,758	△30.9	3,141	△21.0	1,026	△62.6

(注) 包括利益 2023年8月期第3四半期 1,901百万円(53.6%) 2022年8月期第3四半期 1,238百万円(△59.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第3四半期	92.18	84.50
2022年8月期第3四半期	43.97	38.69

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第3四半期	44,456	22,005	49.5
2022年8月期	54,721	20,406	37.3

(参考) 自己資本 2023年8月期第3四半期 22,005百万円 2022年8月期 20,406百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	17.00	—	0.00	17.00
2023年8月期	—	13.00	—		
2023年8月期(予想)				18.00	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想 (2022年9月1日～2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,486	9.8	4,009	20.9	3,875	2.3	2,142	185.3	91.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年8月期3Q	23,980,000株	2022年8月期	23,980,000株
② 期末自己株式数	2023年8月期3Q	639,846株	2022年8月期	639,815株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年8月期3Q	23,340,157株	2022年8月期3Q	23,340,216株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年9月1日～2023年5月31日)における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響については、周期的な感染者数の増減が続いていたものの足許では減少傾向となり、5月から感染症法上の位置づけが変わったことにより影響は収束しつつあります。また、ウクライナ情勢の影響等から原材料の高騰や為替の影響に伴う物価上昇が続いておりますが、個人消費は旅行や外食を中心に持ち直しつつあります。世界経済においては、新型コロナウイルス感染症の対応は引き続き各国、各地域によって異なり、とりわけ中国では12月上旬までゼロコロナ政策による都市封鎖が断続的に行われたため、経済活動に影響が生じておりました。またロシアのウクライナ侵攻による経済的影響が長期化しており、原材料等の価格高騰による世界的なインフレ、各国間での金利格差拡大などによる景気の下振れリスクの高まりが懸念されております。

国内眼鏡小売市場(視力矯正眼鏡)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年同期比は一進一退の状況が継続しており、新型コロナウイルス感染症発生以前の水準にはまだ回復していない状況です。

このような市場環境の中で、当社グループのアイウェア事業では、経営課題として掲げているサプライチェーンの再構築及びイノベティブなプロダクト開発の強化などの取り組みを進めてまいりました。サプライチェーンの再構築につきましては、海外での生産拠点の一極集中の解消や店頭までのリードタイムの短縮を目的に、株式会社ヤマトテクニカルを子会社化し、国内生産体制の強化に着手しております。商品開発につきましては、「近視のない世界の実現」に向けた取り組みの一環として、バイオレットライトを用いた近視進行抑制メガネ型医療機器開発の共同プロジェクトを進めており、当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は42百万円となりました。

店舗展開につきましては、当第3四半期連結会計期間末における店舗数は、国内472店舗、海外238店舗(中国172店舗、台湾53店舗、香港9店舗、米国4店舗)の合計710店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は、前年の新型コロナウイルス感染症の影響からの反動、及び新規出店の効果もあり53,562百万円(前年同期比7.3%増)となりました。営業利益は、売上高が伸長したこと、及び広告宣伝費の削減など、販管費を抑制したことにより3,679百万円(前年同期比33.4%増)、経常利益は3,587百万円(前年同期比14.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,151百万円(前年同期比109.6%増)となりました。

セグメント業績の概要は、次のとおりであります。

セグメント別の売上高

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	構成比	前年同期比増減
国内アイウェア事業	40,627百万円	75.9%	3.3%
海外アイウェア事業	12,935百万円	24.1%	22.1%
合計	53,562百万円	100.0%	7.3%

#### 〈国内アイウェア事業〉

国内アイウェア事業につきましては、約7年ぶりに刷新した「JINS CLASSIC」シリーズ、「STANDARD」シリーズをはじめとした定番商品から販売価格を改定し、11月中旬以降は既存商品も同一の価格帯にしたことにより一式単価が順調に伸長したことに加え、外出する機会が増えたことにより、カラーレンズや紫外線量によってカラー濃度に変化する調光レンズをはじめとした外出に適したオプションレンズの売上が好調だったこと等により、売上高は堅調に推移しました。なお、JINSアプリの会員数が2023年5月末現在で約1,310万人となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、感染者数の増減による影響は徐々に縮小しつつあります。

店舗展開につきましては、国内店舗数は472店舗（出店24店舗、退店16店舗）となりました。

以上の結果、国内アイウェア事業の業績は、売上高40,627百万円（前年同期比3.3%増）、営業利益3,192百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

#### 〈海外アイウェア事業〉

海外アイウェア事業につきましては、中国においては、新型コロナウイルス感染症の影響は、12月上旬に実質的にゼロコロナ政策が撤廃となって以降、業績は回復しているものの、感染者数が周期的に増減しており、今後の業績への影響が懸念されます。

台湾においては、新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であり、オプションとして取り揃えている日本製レンズが好評を博していること等により業績は順調に推移しております。

香港においても、新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であり、業績は順調に推移しております。

米国においては、不採算であったサンフランシスコ旗艦店を8月に閉店し、EC事業を中心とした事業規模の拡大を目指した事業構造改革を進めております。

店舗展開につきましては、中国172店舗（出店3店舗、退店5店舗）、台湾53店舗（出店4店舗、退店なし）、香港9店舗（出店2店舗、退店なし）、米国4店舗（出店なし、退店2店舗）の合計238店舗となりました。

以上の結果、海外アイウェア事業の業績は、売上高12,935百万円（前年同期比22.1%増）、営業利益486百万円（前年同期は営業損失200百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2022年8月期末 (2022年8月31日)	当第3四半期連結 会計期間末 (2023年5月31日)	増減	増減率(%)
総資産	54,721	44,456	△10,265	△18.8
負債	34,314	22,451	△11,863	△34.6
純資産	20,406	22,005	1,598	7.8

## (イ)資産

流動資産は、22,249百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,924百万円減少いたしました。

これは主に、商品及び製品が651百万円増加したものの、転換社債型新株予約権付社債の償還等により現金及び預金が12,248百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、22,206百万円となり、前連結会計年度末に比べ659百万円増加いたしました。

これは主に、新規出店等に伴い建物及び構築物等の有形固定資産が750百万円増加したことによるものであります。

以上により、総資産は、44,456百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,265百万円減少いたしました。

## (ロ)負債

流動負債は、11,276百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,422百万円減少いたしました。

これは主に、1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債が10,033百万円、買掛金が794百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、11,175百万円となり、前連結会計年度末に比べ440百万円減少いたしました。

これは主に、長期未払金が205百万円、長期借入金が115百万円減少したことによるものであります。

以上により、負債合計は、22,451百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,863百万円減少いたしました。

## (ハ)純資産

純資産合計は、22,005百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,598百万円増加いたしました。

これは主に、配当金の支払いにより303百万円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益2,151百万円を計上したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期通期の業績予想につきましては、2023年4月14日に発表いたしました業績予想から変更ありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,430	9,182
売掛金	4,514	4,773
商品及び製品	5,406	6,058
原材料及び貯蔵品	446	527
その他	1,376	1,707
流動資産合計	33,174	22,249
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,610	8,288
その他(純額)	2,139	2,212
有形固定資産合計	9,750	10,500
無形固定資産	2,196	2,164
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,910	4,920
その他	4,690	4,620
投資その他の資産合計	9,601	9,540
固定資産合計	21,547	22,206
資産合計	54,721	44,456

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,535	1,741
1年内償還予定の 転換社債型新株予約権付社債	10,033	—
短期借入金	1,869	2,094
1年内返済予定の長期借入金	70	36
未払金及び未払費用	4,676	4,932
未払法人税等	912	671
賞与引当金	67	112
商品保証引当金	168	175
事務所移転費用引当金	235	58
事業構造改革費用引当金	628	—
資産除去債務	356	340
その他	1,145	1,112
流動負債合計	22,699	11,276
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	10,025	10,017
長期借入金	131	15
資産除去債務	265	266
その他	1,193	875
固定負債合計	11,615	11,175
負債合計	34,314	22,451
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,202	3,202
資本剰余金	3,228	3,228
利益剰余金	18,623	20,471
自己株式	△5,003	△5,003
株主資本合計	20,051	21,899
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	189	112
為替換算調整勘定	166	△6
その他の包括利益累計額合計	355	105
純資産合計	20,406	22,005
負債純資産合計	54,721	44,456



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
売上高	49,916	53,562
売上原価	10,790	11,751
売上総利益	39,125	41,810
販売費及び一般管理費	36,367	38,131
営業利益	2,758	3,679
営業外収益		
受取利息	64	47
為替差益	379	—
補助金収入	144	179
受取補償金	110	—
事業構造改革費用引当金戻入益	—	60
その他	49	55
営業外収益合計	748	342
営業外費用		
支払利息	114	106
持分法による投資損失	65	103
不動産賃貸費用	160	107
為替差損	—	61
その他	25	55
営業外費用合計	365	434
経常利益	3,141	3,587
特別損失		
固定資産除却損	122	97
減損損失	77	25
店舗閉鎖損失	29	26
店舗臨時休業による損失	49	74
事務所移転費用引当金繰入額	235	—
事業構造改革費用引当金繰入額	521	—
その他	7	—
特別損失合計	1,043	222
税金等調整前四半期純利益	2,097	3,364
法人税、住民税及び事業税	1,079	1,103
法人税等調整額	△8	108
法人税等合計	1,071	1,212
四半期純利益	1,026	2,151
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,026	2,151

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	1,026	2,151
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△77
為替換算調整勘定	170	△193
持分法適用会社に対する持分相当額	41	21
その他の包括利益合計	211	△249
四半期包括利益	1,238	1,901
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,238	1,901
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	39,319	10,596	49,916	—	49,916
外部顧客への売上高	39,319	10,596	49,916	—	49,916
セグメント間の内部 売上高又は振替高	363	5	369	△369	—
計	39,683	10,602	50,285	△369	49,916
セグメント利益又は損 失(△)	2,959	△200	2,758	—	2,758

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「海外アイウェア事業」セグメントにおいて、減損損失77百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	40,627	12,935	53,562	—	53,562
外部顧客への売上高	40,627	12,935	53,562	—	53,562
セグメント間の内部 売上高又は振替高	514	2	516	△516	—
計	41,141	12,937	54,078	△516	53,562
セグメント利益	3,192	486	3,679	—	3,679

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。